

平成28年度 第3回半田市地域公共交通会議事録

| | | |
|--------|--|---------------|
| 開催日時 | 平成29年3月28日(火) | 10時00分～12時00分 |
| 開催場所 | 半田市役所4階 大会議室 | |
| 会議次第 | <p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ</p> <p>3. 報告事項</p> <p>(1)平成28年度半田市地域公共交通対策事業報告について 資料1</p> <p>(2)半田市地域公共交通等調査業務委託事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート 資料2 ・グループヒアリング 資料3 ・交通事業者ヒアリング 資料4 ・路線バス利用者調査 資料5 <p>4. 協議事項</p> <p>(1)平成29年度半田市地域公共交通対策事業計画(案) について 資料6, 7</p> <p>5 その他</p> <p>6 情報交換</p> | |
| 出席委員 | (会長) | |
| 【欠席委員】 | 半田市 副市長 | |
| | (委員) | |
| | 知多乗合株式会社取締役バス営業本部長 | |
| | 安全タクシー株式会社代表取締役 | |
| | 愛知県タクシー協会知多支部長 | |
| | 【公益社団法人愛知県バス協会専務理事】 | |
| | 国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官 | |
| | (代理：企画専門官) | |
| | 名鉄知多タクシー労働組合執行委員長 | |

| | |
|-----|--|
| | <p>【愛知県知多建設事務所維持管理課長】</p> <p>【愛知県半田警察署交通課長】</p> <p>亀崎地区代表区長</p> <p>【乙川地区代表区長】</p> <p>半田地区代表区長</p> <p>成岩地区代表区長</p> <p>半田商工会議所福祉共済課長</p> <p>社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長</p> <p>半田市老人クラブ連合会会長</p> <p>特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長</p> <p>一般市民（市民公募）</p> <p>名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授</p> <p>半田市総務部長</p> <p>半田市建設部長</p> <p>半田市市民経済部長</p> <p>半田市議会議員</p> <p>名古屋鉄道株式会社中部支配人（代理：中部支配人室営業総務課長）</p> <p>愛知県振興部交通対策課主幹（代理：主任主査）</p> |
| 事務局 | <p>防災監 齊藤清勝</p> <p>防災交通課 副主幹 間瀬恒幸、書記 斎藤綜太</p> |
| 傍聴者 | 6名 |

| 次 第 | 議事概要 |
|---|--|
| 2. あいさつ | <p>(会長あいさつ)</p> <p>平成29年度は具体的に半田市の公共交通についてバスを中心とした路線を、どのように描いていくかという協議に入っていきます。そういった協議に入る前に、本日の会議では、これまでの協議内容や各種の調査結果などについて説明をします。</p> <p>振り返ると、平成13, 14年に半田市は巡回バスの試行をしましたが、もっとじっくり議論をすべきだったと反省しています。これから描く、実現すべき半田市の公共交通は、しっかりと議論し、課題を丁寧に解きほぐしながら、将来の半田市にとって持続可能な交通手段、移動の路線をどう確保するのかといった視点で、皆さんからの意見をいただきながら創っていきたいと思います。</p> |
| 3. 報告事項 (1)平成28年度半田市地域公共交通対策事業報告について | <p>(事務局)</p> <p>最初に、1. 半田市地域公共交通会議を中心とした事業について説明します。</p> <p>本会議は、今年度第1回を昨年5月30日に開催し、計画策定に向けたスケジュール、既存路線バスの運行経路の一部見直し、先進視察についてご協議いただきました。</p> <p>続いて、本会議の委員でもあります、加藤博和先生を講師に招き、地域公共交通講演会を平成28年6月26日に開催しました。本講演会には、約80名の市民の皆さまが参加するなど関心の高さがうかがえました。</p> <p>次に、第2回地域公共交通会議を平成28年8月19日に開催し、地域公共交通等調査業務委託事業や路線バス運行経路の一部見直しについて協議していただきました。</p> <p>本会議にて、路線バス運行経路の一部見直しについての協議が整いましたので、平成28年10月1日から亀崎線、上池線</p> |

| | |
|------------------------------------|---|
| | <p>もJR半田駅を經由する運行経路に改正いたしました。</p> <p>また、この改正に併せ、主要なバス停からの出発時刻を00分や30分など覚えやすい時刻に改正していただいています。</p> <p>次に先進地視察として、平成28年10月17日に豊橋市に行きコミュニティバスの乗車や担当課のお話を聴くなどの機会を設けました。</p> <p>2点目として、地域公共交通調査業務委託事業を実施しました。委託先である名古屋大学において、市民アンケート、グループヒアリング、交通事業者ヒアリング、路線バス利用者調査などを行っています。</p> <p>調査の報告につきましては、この後、名古屋大学の加藤先生に説明をお願いしております。</p> |
| <p>(2)半田市地域公共交通会議等調査業務委託事業について</p> | <p>(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート <p>約3,000人の市民を対象に1小学校区最低50名以上回収できるように実施しました。回収率の約39%という結果は特に多くも少なくもない数で、また性別や年齢等の偏りもありませんでした。</p> <p>半田市は、それぞれの地域に買い物先や医院があり、そこまで交通手段は自転車や車に頼る方が多く、大きな店舗でちょっと遠いところまで行く人は多くないといった状況でした。これは、路線バスにとって不利な結果で、半田の方がバスを使わない理由の一つと考えられます。</p> <p>病院は、半田市民病院に行く人が多い結果でした。買い物では、北部はバロー、南部はフィールといった結果になっています。市外にある、阿久比アピタ、東浦イオン、常滑イオンに行くといった意見はそれほど多くありません。</p> <p>駅については、北部では亀崎駅を利用する方が多くなっています。公共施設では、半田市役所や図書館に行く方が多いが、</p> |

北部の方は亀崎図書館を使う人が多いといった結果でした。

バスの利用については、普段から利用している方は約3%と少ない。小学校区別でみると、板山小学校区の利用が比較的多く、駅から遠いことや買い物ができる店舗もないこと、また、常滑線の本数が多いことから、その沿線で利用する方が多い結果になったと思われます。

普段使っている人の利用頻度は年に数回程度の方が多く、また、行き先は中部国際空港が一番多くなっているが、現在は、大半の路線が常滑市民病院行きに改正されてしまっています。

現在のバス路線の改善策としては、「本数を増やすこと」の回答が最も多い結果でした。また、バスで行きたい場所は知多半田駅、図書館でしたが、車に乗っている方の回答も含まれていますので精査する必要があります。

タクシーについては、半数以上の方が利用しないとの回答で、利用される方も、年に1～5回程度で、自宅や知多半田駅からの利用が多くなっています。

最寄駅と自宅間の交通運賃については、払わないとの答えが最も多く、次いで100円～300円が多くなっています。

現在のバス路線維持に対する負担額については、現状のままが半数以上となっています。他の市町でおこなった同様のアンケート結果の傾向では、今の負担額より高いと思っている人と低いとってくれる人が、ちょうど半数ずつが一般的な結果ですので、半田は負担額が高いと思っている人の割合の方が他市町と比較すると多いこととなります。現在のバス路線に満足していない人が多いということの現れだと思われます。

また、今後の公共交通について、将来的に便利になるなら負担額を増額しても利便性の向上を目指すべきとの割合が最も多くなっていますが、これは交通が不便な地域の典型的な結果となります。これらの結果から、半田は公共交通を改善しなけれ

ばならないということが明らかになったと言えます。

一方で、今の負担額を高いと思っている方も多いため、中途半端に見直して負担額だけ増えるようだと大きな反発を受けることとなります。

市民の皆さんの行き先は見出しづらく、本数を増やさないと乗る気にならないといった声も聞いていますので、公共交通の改善は必須だと思います。また、改善するために、今よりも少しくらい負担額が多くなってもいいと思ってもらっていますが、きちんと見直す必要があるということだと思われます。

・グループヒアリング

3日間で13小学校区の地域で行いました。それぞれの地域で10名程度の方に集まっていただき、あらかじめ用意した質問に答えていただきました。

基本的に、近隣の医院やスーパー等で日常生活は成り立っており、少し遠くに行きたいときには電車で行く人が多いです。

アンケートの結果では、知多半田駅に行く人が多かったですが、グループヒアリングでは、どの地域で聞いても少ない結果でした。北部では、阿久比駅、東浦駅、亀崎駅、坂部駅が多く、名古屋に行くのであれば、少しでも名古屋よりの駅に行く傾向がありました。

また、医院では、半田病院が多かったですが、阿久比駅に行く途中にある竹内整形も行く人が多かったです。

さくら小学校区では、JR半田駅や知多半田駅への指向が強いですが、知多バスの路線の認知度が極めて低い状況でした。

岩滑小学校区は、不便な地域で半田口や半田病院への指向が強く、半田1区は、公共交通の必要性は感じているものの、どこに行きたいのかなどの行き先が定まらないため、もう少し地域で議論していただく必要があります。

花園、板山小学校区は、青山駅への指向が強く、常滑線について、青山駅を経由できないかとの意見がありました。実は、青山駅も知多半田駅も金山や名古屋駅までの運賃は一緒です。そのため、バスは青山駅に行ってくれた方が電車で早く乗れるうえ、座れる可能性も高いといった意見がありました。

また、板山小学校区の方は、常滑駅に行く方も多かったです。これは、セントレアが開港して名鉄の本数が増えたことや最終バスも常滑発の方が遅い時間となっていることなど、便利になったことによるものと思われます。常滑駅への指向は、常滑線のバスが青山駅に入ることによって変わってくると思われます。

タクシーについては、平日の夜の利用者が多いです。名古屋から帰ってくる方の利用は知多半田駅が一番多いですが、市内から乗られる方は青山駅からが最も多いです。夜は、青山駅界隈の方に活気があるということと思われます。

・路線バス利用者調査

OD調査を行いました。有脇線は、知多半田と市役所前での乗降者が多く、ほとんどの方が、知多半田駅に行くのに利用されていますが、グループヒアリングとの結果とは異なっています。また、乙川方面の方は、市民アンケートやグループヒアリングで、亀崎駅や阿久比駅などに行きたいとの結果でしたが、今利用されている方は知多半田に行っています。これは、現在のバスが知多半田行きなので知多半田に行きたい人は乗っているが、多くの方は別の駅に行きたいと思っているので、バスを利用しないということだと考えられます。バス事業者としては、今、利用している方が大事なので、この路線で運行していますが、地域全体として考えた時には、行きたい場所に向かっていないということになるので見直しが必要です。その一方で、今の利用者をどうするのかといった問題もあります。

上池線、亀崎線も同じ傾向にあります。3路線を合わせると、知多半田と乙川駅の間を乗車している方が多く、先へ行くほど少なくなっている。ただ、詳しく見ていくと上池線の一ノ草病院や南大矢知町、有脇線の庚申町は比較的乗降者が多くなっています。

こうした結果から、この横川小学校区は知多半田駅までの利用者がある程度見込めるので、その辺りまでは本数を確保して運行する必要があると考えられます。その先の緑ヶ丘や有脇、亀崎方面は利用者が少なくなっています。

一つの仮説として、乙川から大池くらいまでは、ある程度本数を確保して運行し、その先は、支線にしていくことが考えられます。

半田の図書館には、北部からも行けるような路線を考えるべきなのかと考えていましたが、北部の方は亀崎図書館を利用される方が多いので、現状では、乗り継ぎで行くことができればよいと考えています。

常滑線は利用者が多いが、半田から常滑に行く人が多いです。半田方面に行く方が少ないことが課題となっていますが、この路線を青山駅に入れることで変わってくると思います。

今のバス路線は知多半田駅が中心なので知多半田駅に行く人が多いが、様々な調査結果から、本当にそれでいいのかと思えます。ただ、現在のバスを利用している方もいるので、注意しなければならないが、例えば、常滑線で知多半田に行く人が電車を利用する方が多いのであれば、むしろ青山駅に乗り入れた方がいいと思うし、知多半田駅界限で用事があるのであれば、知多半田駅に乗り入れる必要があると言えます。

この他、南部方面でも半田病院に行きたい方も多いので、知多半田駅に乗り入れるのであれば半田病院まで路線を伸ばすことも考えられます。

・交通事業者ヒアリング

知多バス、名鉄知多タクシー、安全タクシーからヒアリングを行いました。タクシーについては、現状のニーズが高く台数が不足しており、碧南あたりからも応援に来ている状況になっているとのことです。

そのため、駅でタクシーが待機することも難しくなっているため、駅からのアクセスを考えていく必要がある。

また、南の方が北に、北の方が南の方に行きたいといったニーズは低いので、各地域である程度バス等を循環させて、そこに幹線や鉄道をつなげていくことの方が良いと思います。仮に、南から北へあるいは北から南へ行きたい場合は、乗り換えて行っていただく路線が良いと考えています。

(半田地区代表区長)

加藤先生は、グループヒアリングで各地域を周られた結果、まず、どの地域に公共交通が必要であると感じましたか。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

どの地域を早く取り組んだ方がいいかというのはいろんな考え方があります。私から見て、とても不便と感じるのでやらなければならない場合や地域でやらなければならないと盛り上がっている場合などがあります。どちらを早く取り組む必要があるか否かは、この場ではなかなか申し上げづらいです。

(会長)

アンケートで、経費を増額してでも利便性の向上を目指すべきであるとの回答数が最も多いですが、この経費とは「運賃」のことですか。「市の負担」ですか。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)
市の負担のことです。

(成岩地区代表区長)

タクシーの料金は高いことなどから利用者が少ないと思われます。利用料金がはっきり分かるように、タクシー料金の定額制などの導入はできないでしょうか。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

タクシーについては、利用者が少ない状況ですが、一方で台数も不足しています。タクシーが難しいのは、午前中の病院に行くときや夜の宴会の後など、利用の多い時間帯が同じであるということです。

タクシーは法律上メーター制になっていますので、基本的に定額制はできません。

最近のタクシーの傾向としては初乗りを安くしています。半田市内は、初乗りが700円から600円になりました。普通タクシーではなく乗合タクシー（バスのようなタクシー）という仕組みであれば定額制はできます。運輸局への許可のカテゴリーですので、この会議で承認を得て、タクシー会社がバスの事業ができるような体制にしていただければ可能です。

ただ、そのことによって、一般のタクシー利用者が減ってしまうことや、市からの補助が増加してしまうことなどの問題が生じます。

(成岩地区代表区長)

一般的なタクシーの定額制はできないということですか。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)
現行のタクシー会社の許可制度ですとできません。

(成岩地区代表区長)

他の地域で行っている事例があったと記憶していますがどうでしょうか。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

主要な場所に行く場合に定額制とするところはありますが、近い場所で定額としているところは、全国的にみてもありません。どうしても定額制を導入したいのであれば、先ほど申し上げたように、乗合タクシーとして補助を出す方が一般的です。

(一般市民 (市民公募))

地区路線バス市民協議会の構成員は、どのように考えていますか。

(事務局)

地域が主体となって設置し協議を進めますので、地域で選任いただきたいと思います。

(一般市民 (市民公募))

グループヒアリングでは、その開催についても知らない人が多かったと思います。地区路線バス市民協議会についても、同じようにならないか心配です。

(事務局)

グループヒアリングは、区長さんにその地域で平均的な方をバランスよく集めていただき、聞き取りをさせていただきますし

た。地区路線バス市民協議会は、地域でどう走らせるべきかなどを地域でお話しいただく場ですので、グループヒアリングとは全く異なるものになりますので、地域の皆さんにご参加いただきたいと思っています。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

地区路線バス市民協議会については、地域から設置しようとするのが重要です。地域で協議会がつかれるかどうかのカギとなってくると思います。この協議会は、私や市が強制して設置するものではないと考えています。視察した豊橋市も、その地域が不便だから地域の人が集まり協議し、市が支援する体制だったと思います。他の地域でも市が主体となって、進めているものは、ことごとく失敗しています。

(半田市観光協会事務局長)

タクシーの朝の台数不足は深刻です。ビジネスでの利用や病院の行き来での利用がとても多いことを体感しています。アンケートではタクシーの利用者は少ない結果となっていますが、年齢の高い方などで、週1、2回利用されている方も多い実態もあります。これからの市民懇談会や市民アンケートの結果などで具体的に考えていけるとよいと思います。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

タクシーで同じところで乗り降りしている実態がつかめれば、乗合タクシーにするなどの検討ができますが、事業者ヒアリングでは明確に回答いただけませんでした。

今後もヒアリングを重ねるなかで、そういったところがあることが分かれば、取り組んでいきたいと思っています。タクシー事業者さんで、どこで乗ってどこで降りたのかの集約について、

大変だと思うがやらなければならない部分とも思っている
ので、ご協力いただきながら考えていきたいと思ひます。

(愛知県タクシー協会知多支部長)

タクシーの余裕のある時間帯は14時～16時くらいまで
で、朝も夜も台数が不足している状況です。

(会長)

タクシーを除く公共交通が脆弱であることが明確ということ
です。半田市の全域の中で、人と交通エリアが二分されている
と思ひます。阿久比川の東と西で行動様式が全く違ってしまう
ている。これも半田市の地域交通が脆弱で生活圏の中でしか移
動しない状況になってしまっていることが原因だと思ひます。
もっと東西の移動ができる交通網をつくっていかないと、半田
市の一体性や経済圏の一体性といったものがなくなり将来的に
危ういと思ひます。この公共交通網の形成で、どの程度改善で
きるか分かりませんが、そういった視点でつくっていく事が大
切だと考えています。

| | |
|---|---|
| <p>4. 協議事項 (1) 平成29年度半田市地域公共交通対策事業計画(案)について</p> | <p>(事務局)</p> <p>平成29年度半田市地域公共交通対策事業計画(案)について、ご説明いたします。資料6をご覧ください。</p> <p>来年度の主な事業につきましては、今年度、名古屋大学の加藤先生と中心に行いました各種調査業務をベースに「半田市地域公共交通網形成計画」を策定いたします。</p> <p>策定に向け、まず、①地域内の公共交通に関する現況調査といたしまして、主要集客施設の利用者数の把握、集計、分析などを行います。次に市民の皆さまのニーズ把握のため、住民懇談会を中学校区単位の5か所で行います。第1回は、昨年度実施した各種調査を基に作成する計画の概略、素案をお示しし行います。その結果を踏まえ、地域公共交通網形成計画(案)を策定します。</p> <p>また、第2回目の住民懇談会は、再編実施計画を進めるなか行ってまいりたいと考えています。</p> <p>次に、地区路線バス市民協議会を2地区程度に設置していただきたいと考えています。グループヒアリングや市民アンケート等を参考に、ニーズの高い地域に伺い、協議の場を作っただけの地域から始めていきたいと考えています。</p> <p>2. 半田市地域公共交通再編実施計画につきましては、網形成計画策定後、引き続き策定を進めます。なお、本計画の策定は、特定旅客運送事業者等の同意が必要となりますので、公共交通事業者にもご参画いただきながら進めていきたいと考えています。</p> <p>3. 基幹路線バス運行計画(素案)の策定につきましても進めてまいります。その一部につきましては、翌年度、平成30年度10月を目途に、実証運行を行ってまいりたいと考えています。</p> <p>4. 半田市地域公共交通会議につきましては、ただいま説明</p> |
|---|---|

をいたしました内容等について、委員の皆さまにご協議いただきながら進めてまいります。今のところ、年3回ほどは、少なくとも開催したいと思っております。

つづきまして、資料7をご覧ください。平成30年度までの事業スケジュールの概要になります。

表面の左側は、本年度実施しました内容について記載いたしております。右側は、主に、先ほど説明いたしました、平成29年度の事業計画について記載いたしておりますので、その内容や実施時期について簡単に説明いたします。

まず、上段には、地域公共交通会議を6月、9月、2月に予定いたしておりますが、その主な協議予定の内容も記載いたしております。

その下段は、ワーキンググループといたしまして、網形成計画を策定する上で、庁内の関係各課との調整を図るものです。企画課、観光課、都市計画課、高齢介護課等を予定しております。

次の市民アンケートにつきましては、平成28年度に終えております。

公共交通各種調査につきましては、路線バスの乗降調査を6月に予定しています。これは、既存の路線バスのうち、半田市で補助している5路線の乗降者数等の調査を行うものです。

また、主要集客施設調査につきましては、5月下旬から6月にかけて行いたいと考えています。

続いて、住民懇談会は、第1回を6月中旬から7月まで、第2回を12月中旬から来年1月までに行う予定です。

その下段、基幹路線バスにつきましては、網形成計画を策定し、その後の再編実施計画の策定に並行して策定作業を進め、来年1月末頃に素案を策定する予定です。

地区路線バスにつきましては、地域に主体的となっていただ

き協議を進める場「地区路線バス市民協議会（仮称）」を2地区ほど設置して協議を進めていきたいと考えています。協議が整った段階で、運行についても順次実施していきたいと考えています。

続きまして、地域公共交通各種計画策定につきましては、網形成計画を10月に策定し、その後、再編実施計画の策定に向け進めてまいります。

事務事業といたしましては、国庫補助金等の申請時期等について記載いたしております。

その下段、委託事務等につきましては、網形成計画、再編実施計画等の策定支援業務について、平成29、30年度の2か年の契約について、プロポーザル審査により業者を決定する予定です。

その他につきましては、基幹路線バスの実証運行に向け、公安委員会、道路管理者、地権者等と事前調整を進めていく予定です。

裏面につきましては、平成30年、31年のスケジュールになります。本日、皆さんにご協議いただきたい内容は、平成29年度の事業計画になりますので、時間の関係上説明は省略させていただきます。後程、ご確認ください。

なお、平成29年度の進行状況により、前倒しできるものがあるかと思いますが、現時点における予定になりますので、ご理解いただきたいと思っております。

（亀崎地区代表区長）

住民懇談会と市民協議会とあるが、住民と市民の違いはありますか。

(事務局)

特にありませんが、そういった疑問がないように整理いたします。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

再編実施計画の協議については、本会議では行うことができません。この会議では、バス路線の再編に関する計画について協議いただき、それを踏まえて再編実施計画を策定していただくということになります。

愛知県では日進市が初めて認定されましたが、その策定期間には、長い時間を要しました。また、事務方の作業も増大ですので、承知していただきたいと思います。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

今秋くらいまでに網形成計画を策定します。幹線と支線に分けるということや、どこに拠点にするなどの概略を明らかにしていきます。そして、半田市の公共交通をよくするために市民や事業者等がどのように関わっていくのかの方針をまとめ計画にしていきます。それに並行して、地区路線バス市民協議会を立ち上げて進めていきます。

網形成計画策定後には、詳細な路線の見直しを行い、30年10月には、今の知多バスの路線バスから新しい幹線バスに変わっていくものにしていきたいと考えています。それを具体的に形にしたものとして再編実施計画を策定していきたいと思えます。

幹線ができると、今の路線バスが運行しないところが出てきます。そういったところは、不便になってしまう前に、地区路線バス市民協議会を設置して進めておく必要があります。そういった地域には、しっかりと協議し準備していただけるよう、情報提供をしていく必要があります。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

網形成計画の交付決定については、5月の連休明けくらいにずれ込む予定です。交付決定後に契約していただくこととなりますので、ご注意いただきたい。

(社会福祉法人半田市社会福祉協議会事務局長)

地区路線バス市民協議会について、どのような方法で地域に情報発信し、どのように選定していく予定ですか。

(事務局)

行政協力員会議等でお知らせしますが、住民懇談会も行いますので、そういった場でも発信していきたいと考えています。

(特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長)

ワーキンググループについて、経済課や地域福祉課、市民協働課など、庁内各課の幅を広げていただきたいと思います。

(会長)

関係各課を多くして様々な意見をとった方法もあると思いますが、全体をコーディネートする防災交通課がしっかりと見識を持ち、課題を整理し、必要に応じてまとめていくといった姿勢がないと進まないと思います。

まずはワーキンググループの中で、たたき台や素案を提案しながらこの場で議論していくことが必要だと考えています。

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻准教授)

地区路線バス市民協議会は2か所でなくてもいいと思います。10か所でも構わないと思っています。メンバーについて

は、地域でこの人がいないと進まないといった方が入ることが必要です。

地区路線バスは、「山車」だと思っています。「山車」を動かすのには、誰が何をしないといけないのか。これは、年中走る、お金を払えば誰でも乗れる「山車」と考えています。この「山車」を地域で走らせるには、誰がどうすればいいのかを、それぞれの地域で考えていただきたいと思います。

(会長)

ただいま提案しました事業計画及びスケジュール（案）についてご承認いただけますか。

(全員)

承認 ※拍手

5. その他
・ 情報交換

(事務局)

来年度に策定する予定の「半田市地域公共交通網形成計画」の事業費につきましては、総額940万円程の見込みとなっておりますが、国庫補助金の交付申請を予定いたしており、交付決定されますと、事業費の2分の1を上限に補助を受けることができます。

昨年末に要望調書を提出させていただきましたが、本会議の委員の加藤先生や中部運輸局の杉本さんのご支援を受け、内定をいただける見込みとなっておりますのでご承知ください。

(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官)

国の補助は必要なところに予算がつくものと考えています。全国的にも補助申請をすることは増えており、予算の範囲の中で、どこを補助するのかは最終的に国交省が決定しますが、半田市に関しては、愛知運輸支局として、特に力を入れてアピールさせていただきました。

(知多乗合株式会社取締役バス営業本部長)

常滑市民病院は通院、お見舞いの方など利用者が多い。これから建設予定の半田市民病院も玄関に近いところに、バスやタクシーの発着場を確保していただきたい。

(特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長)

春祭りのキャンペーンについてPRさせていただきます。名鉄の往復切符と知多バスの1dayフリー切符のセットの商品をつくりました。

(防災監)

路線バスの旅で知多バスが使われたので紹介します。

【終了】